

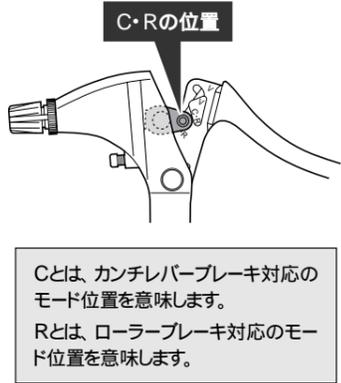
警告

自転車のブレーキは、製品のモデルによって取扱いが多少異なることがあります。したがって、ブレーキレバーへの入力や自転車の操作特性などを含め、個々の自転車のブレーキシステムの適切な操作を充分理解し慣れるようにしてください。ブレーキシステムの操作が適切でない場合、自転車のコントロールを失い事故のもとになり、また大怪我を招くとも限りません。適切な操作については、自転車専門店にご相談いただき、また自転車の取扱い説明書もよくお読みください。ご自分の自転車にお乗りになって、ブレーキ操作などを練習していただくことも大切です。

シマノフロントインターMブレーキシステムは、自転車の左側に装着してください。なお26 未満の自転車に使用される場合は、HB-IM30をご使用ください。もし間違えて26 以上の自転車にこのフロントハブを使用しますと、ブレーキが効きすぎて車輪がロックし、バランスをくずす等により転倒するおそれがあります。

フロントインターMブレーキシステムのハブ体には、ブレーキの効きすぎを制御するパワーモジュレーターが内蔵されています。このパワーモジュレーターは、ある一定のブレーキ力に達すると、それ以上のブレーキ力が出ないように制御する装置です。なおHB-IM40/ HB-IM45のパワーモジュレーターの使用推奨範囲は、自転車総重量(自転車+乗員+荷物)が65kg ~ 120kgです。自転車総重量が推奨範囲より重い場合には効き不足、軽い場合は効きすぎて車輪がロックし、転倒等の可能性がありますので、パワーモジュレーターの機能特性を充分ご理解、ご体験されたうえでお使いください。パワーモジュレーターは、車輪のロック防止装置ではありません。

SB-7S45/BL-IM45のブレーキレバーには、モード切替が装置されています。BR-IM35-FFは必ずC・Rのモード位置でご使用ください。



製品を取付ける時は、必ず取扱い説明書等に示している指示を守ってください。またその際、シマノ純正部品の使用をお勧めします。ボルトまたはナット等が緩んだり、製品が破損すると、突然に転倒して怪我をする場合があります。

乗る前には必ず前後のブレーキが正しく作動するかどうか確認してください。

路面がぬれていると、タイヤがスリップしやすくなります。タイヤがスリップすると転倒して危険ですので、スピードを控えて、早めの滑らかなブレーキ操作をしてください。

取扱い説明書はよくお読みになった後、大切に保管してください。

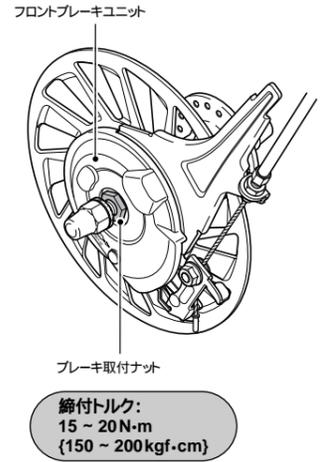
注意

1. シマノインターMブレーキシステムは、長い下り坂でブレーキを連続して使用されると、ブレーキ内部が高温になりブレーキの効きが弱くなったり、内部のグリスがなくなりブレーキの効きが急に強くなる等の異常が発生する場合があります。シマノインターMブレーキシステムは、ISO(4210)DIN(79100-2)等の規格を基本に設計しています。それらの規格は、総重量が100kgでの性能をうたっています。総重量が100kgを越える場合には、ブレーキ力不足・耐久性不足等の不具合が生じることもありますので、そのことを考慮してご使用ください。

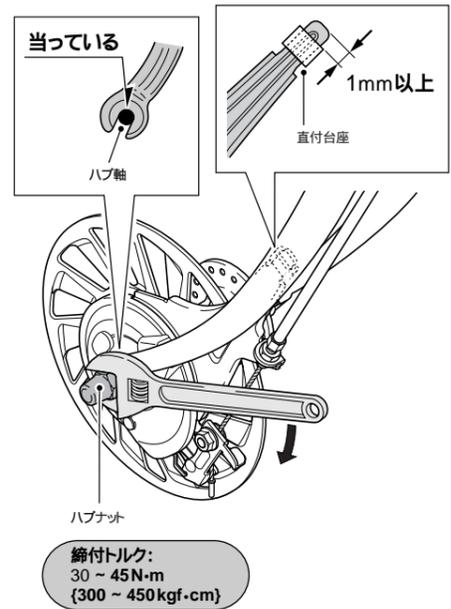
2. シマノフロントインターMブレーキのブレーキケーブルとブレーキレバーは、必ずセットでご使用ください。(ラインナップ参照)

(ブレーキレバーを握ったときのインナーケーブルの引き代は、14.5mm以上必要です。14.5mm未満の場合は、ブレーキ性能が悪くなり、ブレーキが効かなくなることがあります。)

3. フロントブレーキユニットが、ハブ本体にブレーキ取付ナットで確実に固定されていることを確認してください。



4. ハブ軸がフォークエンドの奥に当たって、ブレーキアームの先端が前フォークの直付台座の端面から1mm以上出ている状態で、車輪がフレームにハブナットで確実に固定されていることを確認してください。取付け不良は、フレームから車輪が外れ、転倒などの危険性があります。

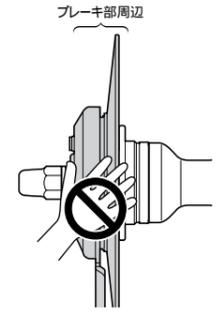


5. 使用中、次のことが発生した場合には、即刻使用を中止し、販売店で点検・修理をしてください。

- 1) ブレーキをかけたとき、音鳴りがした場合
- 2) ブレーキの効きが異常に強すぎる場合
- 3) ブレーキの効きが異常に弱すぎる場合

1と2)の場合は、ブレーキグリスの不足が考えられますので、販売店でローラーブレーキ専用グリスを補給してください。

6. ブレーキをひんぱんに使用した場合、ブレーキ部周辺が高温になる場合があります。走行後しばらく30分位)は、ブレーキ部周辺に手をふれないよう注意してください。



7. ブレーキケーブルがさびると、ブレーキの効が悪くなります。効が悪くなった時は、新しいシマノ純正ブレーキケーブルと交換し、再度ブレーキの効きを確認してください。

8. BR-IM35-FFのフロントブレーキユニット及びフロントハブユニットは分解できません。分解するとトラブルや故障の原因になります。

9. フロントブレーキユニットの取外し・取付けは、購入された販売店にご相談ください。

使用上の注意:

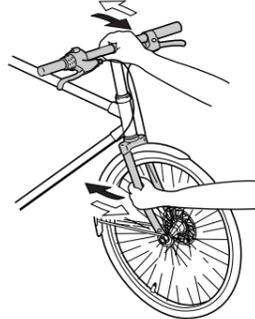
• スポークは、6本組または8本組で編まれた車輪を使用してください。ラジアル組の車輪は使用できません。スポークや車輪の破損またはブレーキ時に音鳴りの発生する恐れがあります。

• フロントインターMブレーキは、従来のバンドブレーキと異なり、ドラム内部にグリスが封入されているため、タイヤ回転がわずかに重くなっています。(特に冬期)

• フロントインターMブレーキには、ハブ本体にブレーキの出力を制御するパワーモジュレーターが内蔵されています。ブレーキをかけて、パワーモジュレーターが働くときに、作動音が発生しますが、異常ではありません。

• フロントインターMブレーキは、停車時にブレーキを強くかけた状態で、車輪を前後に揺ると、構造上、ブレーキ部に若干の遊びがありますが、異常ではありません。また、走行にも全く支障はありません。

• ヘッドパーツ部のガタのチェックは、図のようにハンドル中央部と前フォークをしっかり握り、ヘッドパーツ部を中心に、矢印の方向に交互に動かして、ヘッドパーツ部のガタをチェックしてください。なお、従来のようにブレーキをかけたまま、車輪を前後に揺する方法では、構造上、ブレーキ部に若干の遊びがあるため、ヘッドパーツ部のガタのチェックが難しくなります。



• 通常の使用において自然に生じた摩耗および品質の劣化は保証いたしません。

**フロントインターM
ブレーキシステム**

ご使用方法

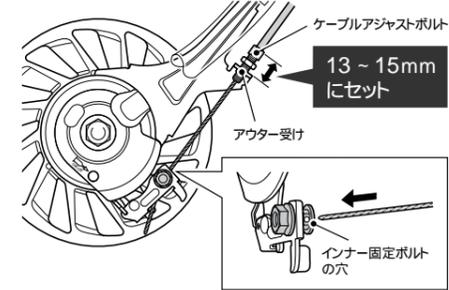
シマノフロントインターMブレーキシステムの機能を十分に発揮させるため、下記のラインナップによる使用を推奨いたします。

ブレーキ本体	BR-IM35-FF
ハブ本体	HB-IM40/ HB-IM45/ HB-NX50
レバー	SB-7S45/ SB-4S35/ SB-3S30/ BL-IM45/ BL-IM32
ブレーキケーブル	

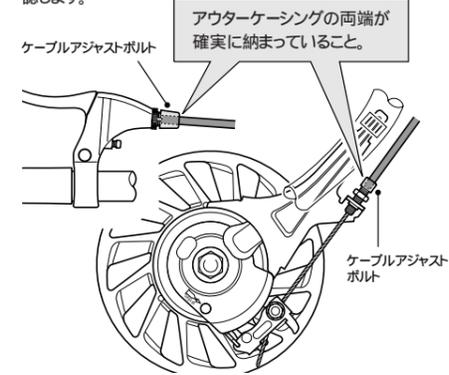
BR-IM35-FFは、ナット式ハブと合わせてご使用ください。

ブレーキケーブルの取付け

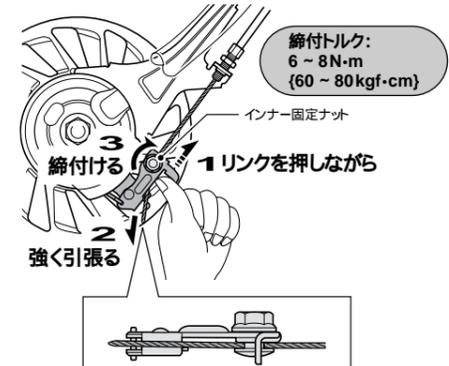
1. ケーブルアジャストボルトをアウター受けの端面から13 ~ 15mmの位置にセットし、インナーケーブルをケーブルアジャストボルトの穴から、インナー固定ボルトの穴に通します。



2. アウターケーシングの両端が、ブレーキレバー側とブレーキアーム側のケーブルアジャストボルトに確実に納まっていることを確認します。



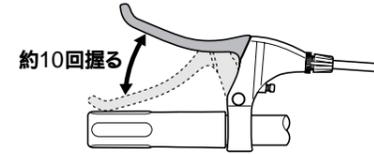
3. リンクを当りまで押し、インナーケーブルをいっぱい引張った状態で、インナー固定ナットを締付けます。



ご注意:
インナーケーブルは、リンクの下を通るようにセットしてください。

ブレーキケーブルの調整方法

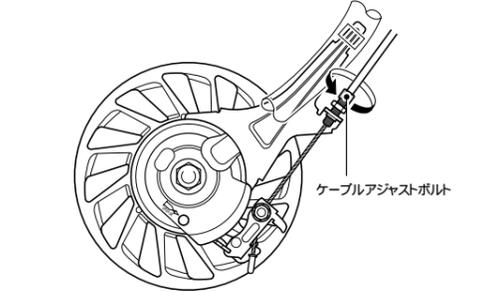
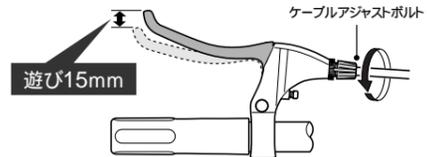
1. ケーブルが張りきみで、車輪の回転が重くなっていることを確認したあと、ブレーキレバーをグリップに付くまで、約10回ほど握り、ケーブルをなじませます。



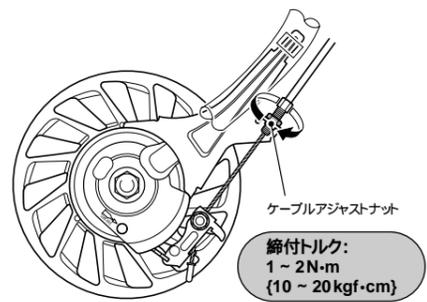
ご注意:
ケーブルがなじんでいないと、短期間で再度ブレーキの調整が必要になります。

2. ブレーキユニットまたはブレーキレバーのケーブルアジャストボルトを回して、ブレーキレバーの遊びが15mmになるように調整します。

(ブレーキレバーの遊びとは、レバーを操作していない状態から、レバーを少し引いていくと、急に重くなる所までの引き代のことです。)



3. ブレーキレバーを握り、ブレーキの効きを確認したあと、ケーブルアジャストナットでケーブルアジャストボルトを固定します。



この取扱い説明書は、ご購入された自転車に装着されているシマノ製自転車部品の取扱い方法を説明しています。ご購入された自転車及びシマノ製自転車部品以外に関するご質問は、ご購入先または自転車製造元へのお問い合わせをおすすめいたします。